

認知症ケアレジストリ研究に おけるBPSDスポット調査について

認知症介護研究・研修東京センター

平成30年5月22日版

研究の位置づけ

適時適切な医療・ケアをめざした、認知症の人等の
全国的な情報登録・追跡を行う研究
(国立長寿医療研究センター) H28/4/1~H33/3/31

認知症ケアに関する
登録班

認知症ケアの標準化に
関する研究

認知症ケアレジストリ
研究(3センター)

普及・推進の体制構築

認知症ケアの標準化に関する研究 (認知症ケアレジストリ研究) の目的

- BPSDに対する介入手法の
類型化、関連要因、介入方法、手順の明確化
(認知症の人の長期間追跡調査)
- BPSD等の軽減に資するケアのエビデンス構築
(BPSDスポット調査)
- データベースの提供による
国内の認知症ケア研究の促進



本研究における 認知症ケアの標準化とは？

どのような状態の認知症の人に対し、どのようなケアを行うと、その状態が改善し、QOLが高まる確率が高いのか、認知症の人に対するケアとその結果を大規模に収集し、統計解析することにより明らかにすること

前提：パーソン・センタード・ケア、個別ケア

認知症ケアの標準化の意義

- 認知症の人の状態に応じ、統計的に有効である確率の高い（＝優先順位の高い）ケアから実施できる。

⇒初任者等であっても、より効果的に（短時間で・少ない負担で）BPSDが軽減できる可能性が高まる。

- 必ずしも優先順位が高いケアが有効であるとは限らない。こうすれば必ずうまくいくというマニュアル作りをめざすものではない。
- 例えば、優先順位の高いケアを実施しても、認知症の人に良い影響がなければ、次に優先順位の高いケアを実施するということになる。
- 認知症ケアの標準化は、あくまでも個別ケアを深める方向を目指しており、利用者本位の個別ケアを推進するための基盤作りである。
- 認知症ケアに関わる専門職の専門性を社会により客観的に説明できる

エキスパートの実践知を形式知に